

#### Level 10

2019年2回



検定開始の合図があるまで問題を開いてはいけません。 まず、下記の注意をよく読んでください。

#### = □ 検定上の注意 □ =

- 1. 検定時間は 90 分です。
- 2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
- **3.** 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしたら、手をあげて 監督者に知らせてください。
- 4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
- 5. 問題は、答案用紙と一緒に回収します。

 受検番号
 氏名

### 《問題Ⅰ》 次の問いに答えなさい。

第一 問 後の問題文には(1)~(4)のような論理的に誤った箇所があります。 それぞれ(1)~(4)に該当する誤った箇所の行数

を答え、間違いを抜き出し、正しい形に直しなさい。

- (1) 指示語の使い方が間違っている。
- (2) 助詞・助動詞の使い方が間違っている。
- (3) 接続語が間違っている。
- (4) 読点の打ち方が間違っている。

第二問 問題文を四つの段落に分けて、第二、三、 四段落の最初の七字 (句読点・記号等を含む)を抜き出しなさい。

### (問題文)

用いてものを考えるとき、 中で想像する役割、 きです。これに対し左脳は、 人間の脳 は右脳と左脳の二つに分かれており、 直感やひらめきをもたらす役割を担っています。 人は左脳を使っているのです。これを受けて、 言葉の認識や数の計算など、 それぞれ機能がちがいます。 言語を用いた思考を受け持っています。 絵を描い ひらめき型で感性に優れた芸術家タイプの人 右脳は図形や空間を認識する役割、 たり楽器を演奏したりするのも右脳 数字や日本語などを 頭の の働

す。 は えば 逆に、 表現の 映画を観て感動したときも、「あれはヤバいね」。相手を見下したときも、 最近は何でも「ヤバい」という言葉で表現する人が増えていますが、これほど不思議な言葉はありません。 言葉が豊かになることで、 仕方、 あ ۲, るい の一言で片付けてしまうのです。 は世界の捉え方も単純になり、 その人の感性が磨かれる例もあります。 ( ) このように「ヤバい」という言葉をすべてを処理している人 現実に存在しないものまでありありと脳裏に浮かび つのまにかその人の思考や感性が単純化されてしまうので 私が子どもの頃、 「あの人はヤバいわ」。いいことも悪い あれ以上に有効なのは言語によるイメ 感性もにぶくなってしま 私の手には十二色のク 上がらせ

AIが普及して

しかし実際は

ジをAIに伝えるには、 ます。 色の名前を学ぶと、色に対する私の認識はさらに精妙なものへと再構成されました。このように、日本人は日本語によ るときにも言語の力が求められます。AIによって想像上のイメージを実現するには、AIを駆使する力が必要になり く言い表せるようになると、 ってその感性を、磨くことができるのです。また、頭の中でイメージを構成するときだけではなく、イメージを実現す スしかありませんでした。だから、 その際に大切なのは そのイメージを言語で論理的に表現しなければならないのです。 私の世界は以前より色鮮やかになりました。 論理的な言語の使い方です。 私の世界は十二色で構成されていたのです。 コンピュータには感性は 古文の学習を通して萌葱色や浅葱色など古い 一切通用しない しかし色の名前を覚えて色を細 新しい時代で創造的な人間に ため、 自分のイメー

なるために、今こそ言語の論理的な使い方を習得するべきなのです。

## 《問題Ⅱ》 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

IJ た。 ŧ も疑はなかった。中には彼女が在学中、 信子は女子大学にいた時から、 縁談からきめてかかるべく余儀なくされた。 そうは我儘を云われない、 学校を卒業して見ると、まだ女学校も出ていない妹の照子と彼女とを抱えて、後家を立て通して来た母の 複雑な事情もないではなかった。そこで彼女は創作を始める前に、 才媛の名声を担っていた。彼女が早晩作家として文壇に打って出る事は、ほとんど誰 既に三百何枚かの自叙伝体小説を書き上げたなどと吹聴して歩くものもあ まず世間の 習 慣通

怒りながらも俊吉の皮肉や警句の中に、 並べていた。 る意志があるらしかった。信子はこの従兄の大学生と、昔から親しく往来していた。( A 《女には俊吉と云う従兄があった。彼は当時まだ大学の文科に籍を置いていたが、やはり将来は作家仲間に身を投ず 当世流行のトルストイズムなどには一向敬意を表さなかった。そうして始終フランス仕込みの皮肉や警句ば こう云う俊吉の (1) 何か軽蔑出来ないものを感じない訳には行かなかった。 的な態度は、 時々万事真面目な信子を怒らせてしまう事があった。 唯、 彼は信子と違 が、 彼女は かり

子を忘れるものは、 信子はしかしそれに気がつくと、 ったり話したりした。が、 飾窓の В 中のパラソルや絹のシヨオルを覗き歩いて、 )もつとも大抵そんな時には、 いつも信子自身であった。 妹の照子だけは、 必ず話頭を転換して、 時々話の圏外へ置きざりにされる事もあった。それでも照子は子供らし 妹の照子もいっしょであった。彼等三人は行きも返りも、 俊吉はすべてに無 (3) すぐに又元の通り妹にも口をきかせようとした。 格別 **(2)** )された事を不平に思ってもいないらしかった。 )なのか、 あいかわらず気の利いた冗談ばか 気兼ねなく笑 その癖まず照

り投げつけながら、 目まぐるしい往来の人通りの中を、 大股にゆっくり歩いて行った。

での間に、 そんな事が ら 青年と、突然結婚してしまった。そうして式後二三日してから、 しかった。信子も亦一方では彼等の推測を打ち消しながら、 女の未来をてんでに羨んだり妬んだりした。殊に俊吉を知らないものは、(滑稽と云うより外はないが、)一層これが甚 った。その時中央停車場へ見送りに行ったものの話によると、信子は何時もと変りなく、 ところが学校を卒業すると、 信子と従兄との間がらは、 ともすれば涙を落し勝ちな妹の照子をいろいろと慰めていたと云う事であった。 何時か彼女と俊吉との姿が、 何度か繰返される内に、だんだん秋が深くなつて来た。従って同窓たちの頭の中には、 勿論誰の眼に見ても、 信子は彼等の予期に反して、 あたかも新婦新郎の写真の如く、 来るべき彼等の結婚を予想させるのに十分であった。 大阪の或商事会社へ近頃勤務する事になった、 他方ではその確な事をそれとなく故意に仄かせたりした。 新夫といっしょに勤め先きの大阪へ向けて立ってしま いっしょにはっきり焼きつけられてい 晴れ晴れした微笑を浮べなが 彼等が学校を出るま 同窓たちは彼 高商出身の

ば しなかったか? とが交っていた。 かり経つと 同窓たちは皆不思議がった。 C 彼等はその後暫くの間、よるとさわると重大らしく、必ずこの疑問を話題にした。そうして彼是二月 ・全く信子を忘れてしまった。 その不思議がる心の中には、 又或ものは彼女を疑って、心がわりがしたとも云いふらした。 勿論彼女が書く筈だった長篇小説の噂なぞも。 妙に嬉しい感情と、 前とは全然違った意味で妬ましい 彼女はなぜ俊吉と結

た。 た。 信子はその 松脂 信子はそう云う寂しい午後、 0 匂 間に大阪の郊外へ、幸福なるべき新家庭をつくった。 と日の光と、 それが何時でも夫の留守は、 時々理由もなく気が沈むと、 二階建の新しい きっと針箱の引出しを開けては、 彼等の家はその界隈でも最も( 借家の中に、 活き活きした沈黙を領して その底に畳んでしま **(4**) な松林にあ

**(** )

てある桃色の 書簡箋をひろげて見た、 書簡箋の上にはこんな事が、 細々とペンで書いてあった。

れて来ます。 もう今日かぎり御姉様と御い 御姉様。 どうか、 どうか私を御赦し下さい。照子は勿体ない御姉様の犠牲の前に、 っしょにいる事が出来ないと思うと、これを書いている間でさえ、 何と申し上げて好い 止め度なく涙が

かもわからずに居ります。

ない け は た晩、 と思いました。 どもあれから二三日経って、 しました。 さんの所へ行けとも仰有いました。 て? な御 れば、 どの位申し訳がないかわかりません。)ですからその晩も私には、 よう。 御姉 姉 D 何度も繰返して仰有いました。 きっと御自分が俊さんの所へいらしたのに違いございません。それでも御姉様は私に、 様。 あの手紙がなくなった時、 私 私が怒って御返事らしい御返事もろくに致さなかった事は、 様 は 餇 私が今日鶏を抱いて来て、 は 私に俊さんは好きかと御ききになりました。 そうではないとおっしゃっても、 てい Ε 御姉様の御縁談が急にきまってしまった時、 (御隠しになってはいや。 私とい ほんとうに私は御姉様を御恨めしく思いました。 あの時もう御姉様は、 そうしてとうとう心にもない御結婚をなすって御しまいになりました。 つ 大阪へいらっしゃる御姉様に、 しょに 御姉様へ御詫びを申して貰いたかったの。 私にはよくわかって居ります。 私はよく存じて居りましてよ。)私の事さえ御かまいにならな 私が俊さんに差上げる筈の手紙を読んでいらっしゃっ それから又好きならば 御姉様の親切な御言葉も、 もちろん御忘れになりもなさりますま 御挨拶をなさいと申した事をまだ覚えてい 私はそれこそ死んででも、 何時ぞや御い 御姉様がきっと骨を折るから、 (御免遊ばせ。この事だけでも私 そうしたら、 俊さんなぞは思って 皮肉のような気さえ致 っしょに帝劇を見 御詫びをしようか 何にも御存知 私の大 けれ 俊

ない

御母様まで御泣きになりましたのね

「御姉様。 もう明日は大阪へいらしって御しまいなさるでしょう。 けれどもどうか何時までも、 御姉様の照子を見捨て

ずに頂戴、 照子は毎朝鶏に餌をやりながら、 御姉様の事を思い出して、 誰にも知れず泣いています。

信子はこの少女らしい手紙を読む毎に、必ず涙が滲んで来た。殊に中央停車場から汽車に乗ろうとする間際、 そっと

この手紙を彼女に渡した照子の姿を思い出すと、何とも云われずにいじらしかった。が、

彼女の結婚は果して妹の想像

通り、 全然犠牲的なそれであろうか。そう疑いを挾む事は、 涙の後の彼女の心へ、 重苦しい気持ちを拡げ勝ちであ

た。 当った日の光が、 信子はこの重苦しさを避ける為に、 だんだん黄ばんだ暮方の色に変って行くのを眺めながら。 大抵はじっと快い **(5**) の中に浸っていた。 そのうちに外の松林 へ一面に

芥川 龍之介「秋」

第 問 次の文章を元の場所に戻して、 その直後の五字を抜き出しなさい。

が、 それらの解釈が結局想像に過ぎない事は、 彼等自身さえ知らない訳ではなかった。

第二問 (1) \( \sigma \) )に入る言葉を、次のア~才の中から選び、記号で答えなさい。

ア<br />
頓着<br />
イ<br />
閑静<br />
ウ<br />
冷笑<br />
エ<br />
感傷<br />
オ<br />
閑却

第三問 ( A ) ~ ( E ) に入る文を、次のア~オの中から選び、 記号で答えなさい。

ア だから彼女は在学中も、 彼といっしょに展覧会や音楽会へ行く事が稀ではなかった。

イ 或者は彼女を信頼して、すべてを母親の意志に帰した。

ウ 御姉様も俊さんが御好きなのでございますもの。

・ 行女才、任二ノス行女にする。 これいましょく

エ 御姉様は私の為に、今度の御縁談を御きめになりました。

オ

それが互に文学と云う共通の話題が出来てからは、

いよいよ親しみが増したようであった。

第四問 問題文中に余分な一文が一箇所あります。その一文の初めの五字(句読点・記号等を含む)を抜き出しなさ

ر ، ه

第五問 線部 「彼女の結婚は果して妹の想像通り、 全然犠牲的なそれであろうか。」とありますが、 妹の想像した

犠牲とは何か、 具体的に五十字以内(句読点・記号等を含む)で説明しなさい。

### 《問題Ⅲ》 次の問いに答えなさい。

第一問 次の言葉を並べかえて、一文を作りなさい。

**(1**) 察する 中で いる 日本人は 文化の 育って

なすには、 冷静に 心理状態を 事を 自分の 観察せよ

0

**(2**)

第二問 次の言葉を並べかえて、一文を作りなさい。ただし、それぞれの文には、不要な言葉が二つずつあります。

(1)**(2**) 通した 0 1 しなさい が 価値 決して あなたは 筋を 生き方を 正しい

は では 決める 人間 もの ある ない

第三問 次の言葉を並べかえて、 一文を作りなさい。

す 空 能 天 星 を 0

**(2**)

曖

は

態

だ

糊

頭

昧

彼

模

状

0

な

0

**(1**)

0

堪

る

満

- 9 -

他人

0

## 第四問 次の文章を読んで、( )に当てはまる二字の漢字を答えなさい。

く災いなど、この世には一つもないのだ。 どんな危機が訪れようと、 決して希望を失ってはいけない。 梅雨空の闇夜であっても、()はやがて雲間から漏れてくる。 生命がある限り、希望を失ってはいけない。 永遠に続

第五問 次の文章を読んで、()に当てはまる二字の言葉を、 後の漢字を組み合わせて答えなさい。

ŧ 自分の健康、 決まって自分の職業や専門分野などから種を出してくる。 家庭の内情、 職業の現状など、 自分一身のことばかり話題にする人がいる。 何ともしまりのない話である。 例え話や実例を出すとき

人はあなたの個人的なことなど、あなたが思っているほど興味がないのだ。

を話題にしていいのは、 親友との間だけであり、 しかも、 その話題やそれへの関心が彼我に共通だという

場合に限るのだ。

公 話 供 友 事 彼 題 世 私

間

# 《問題Ⅳ》 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

新しい びとはこの辺を逍遥してい び、 宮寺の思惟の菩薩に、 かけて る。 は 1 頃であった。 松、 或いは百済観音のほのぼのとした清純な姿に法悦の高い調べを思ったりした。これらみ仏そのままの風貌、 私はこうした思いで心が一杯になり、 私ははじめ史書によってこの時代を学んだのではなかった。 推古天皇の御代、 その 0 斑。 (b) 鳩る あ **(** ) 0 だを明 里の遍歴が、 をめぐってどのような昏迷と苦悩と、 幾たびかその面影をさぐってみた。 瞭に 上宮太子が摂政として世を治めておられた飛鳥の頃は、 たのであろうか。 区ぎっている法隆寺の土塀、 l, つしか私の心に飛鳥びとへの 夢中で斑鳩 そこには永遠の安らい の址をめぐって歩い また法悦が飛鳥びとをとらえたか。 この整然たる秩序を保った風光の裡に、 頬に軽く指先をふれた柔軟な思惟像に彼らの瞑想の深さを偲 (a) 大和への旅、 )をよび起したのである。 があったに相違ない。 た。 わけても法隆寺から夢殿、 私にとって最も懐しい歴史の思い出であ 私の心にも漸く新生の はじめて法隆寺を訪れ 私は 海岸を思わせる白砂と 法隆寺の百済観音や中 千三百年のい 曙 が 訪 n そ めた た頃

もに 2 年のあ かった。 め て飛鳥の **(1**) 非常な驚きでもあっ いだは、 仏像の美にひかれるままに経文を読み、 地獄にひらかれるようになったのである。 み仏が次第に私を導いて行ったところは、 眼を蔽わしむる凄惨な戦いの日々である。 た。 対外的のことは暫く措くとしても、 また日本書紀や上宮聖徳法王帝説に接するにおよんで、 とくに日本書紀を読んだことは、 必ずしも平穏な天国ではなかった。 蘇我・物部両族の争いにとどまらず、そが、もののべ 国内的にみれば欽明朝 より 私にとってよろこびであるとと 推古朝にい 春風駘蕩たる時代でもな 穴穂部皇子や宅部皇子 たるおよそ五十 私の 眼 ははじ

は これらの 0 悲しむべき最期が すべて同族の嫉視や陰謀 争闘 は 悉く親しい あり、 物部氏の滅亡についで、 骨肉のあい 血で血を洗うがごとき凄愴な戦いだったのである。 だに起った悲劇であっ 遂にはは 崇峻天皇に対する馬子等の大逆すら起っていました。 た。 上宮太子が御幼少の頃より 日として安らかな日はなかっ 眼の あ たり見られたこと **(2**)

云

てい

- 呻吟から、 (3) 12 え行くごとき絶妙の姿も、 もたらす和かな風光からは想像も及ばぬ。 血 族 仏 法は 0 屍就 飛鳥びとの心魂をこめて祈った、 0 まだ漸く現世 上に建立されたかにみえる。 思惟の像にみらるる微笑も、 (**c**) か乃至は迷信の域を脱しない。 諸々のみ仏の大らかに美しいのが不思議なほどである。 書紀にしるされた全般をいまここに詳述は 祈りのあらわれでもあったろうか。 かの苦悩の日のひそかな憧れであったのだろうか。 さもなくば政略の具でなかっ 出来ない が、 た。 百済観 現 今の 諸 音 家の 凄惨な生の 斑 0 仏堂はな 虚空に消 鳩 0 里 か 徒
- 修事 大事に 4 をとおして私はまずそのことを思わざるをえなかった。 それにつけてもかかる時代に成長され、 相違ないが、そういう外的状勢乃至文化論からのみ太子を論じることに私は同じ難い。 ―この大悲痛からの脱却を身命を賭して祈念された勁い信念、 難局に処せられた上宮太子の憂苦とは 大陸文明の伝来に当って、 何よりもまず私はそこへ参入したいと願うのであ これを厳正に摂取され ( ) かばかり 最も親しき人々 のものであ たの つ た はむろん 流 書紀 0
- 宮もむろん て現在に伝わったのだという。 **(5)** 夢殿 0 地 は (d)太子の御郎 に 帰 だっ したのであるが、 もとは斑鳩宮寝殿の近く、 た斑鳩宮の 址 とい およそ百年後の奈良朝にい われる。 隔絶された太子内観の道場であり、 太子薨去の後、 たって再建され 御遺族は悉く蘇我のそがの た夢殿 入る ここにこもって深思され がが、 鹿が 0 幾たび ため滅ぼされ か 0 補 修を経 斑 鳩

る。

れが書紀を読んだ後の

私の感銘であった。

ではなかろうか。 荒々しい捨身を唆すごとく佇立している。太子はかの未曾有の日に、 1) たと伝えられる。 れ行く姿を御覧になって捨身を念じられたのであったが、 0 微笑とも異なり、 Ú 太子の息吹を継ぎ宿しているかにみえる。 ί, ずれにしても太子の御霊は、 (3) )野性をさえ思わしむる不思議な生気にみちた像である。 百済観音のほのぼのとした鷹揚の調べとも、 いまなお憩うことなく在すであろう。 そういう無限の思いを救世観音は微笑の 外来の危機を憂い、また血族の煩悩や争闘に 慈悲よりは憤怒を、 夢殿に佇む救世観音の また中宮寺思惟 かげに秘めて 諦念よりは 像 金色の光 0 しまみ るの 幽 遠

系として知的に対したりするとき、歴史の根本は歪められるのである。 6 は大乗を修得されたというだけでは何事も語らぬにひとしい。 れに身を置かれた太子は、 今となってみれば、 太子の一身をもって具現されたものは大乗の悲心であった。 おのずから人生苦の深みに思いを傾け、 仏法を宗派的なものに限定したり、 真の救済について祈念せざるをえなかったというこ **(4**) )仏法は伝来せずとも、 しかし仏法が伝来したが故に太子 乃至は外来の思想体 生の凄惨な流

とが

大事なのである。

て、 自身の率直な( 7 Z 条について、 願 その一 十七条憲法は治世のための律法でもなく、 を、 語 私は御祈りの一 身にうけてあらわされたのだと申してもいいであろう。 語に、 (**e**) 太子の苦悩と体験は切に宿っていると拝察される。ここに十七条中でもとくに肝要な最初の三カ の言葉なのである。 端になりともふれてみたいと思う。 私はそう解する。 単なる道徳訓でもない。それらの意味をふくめてはいるが、むしろ太子 あるいは同族殺戮の日において民心に宿った悲痛の かくあれかしと衷心より念じ給うた言葉であ

- 10 8 順はずして乍た隣里に違ふ。然れども上和ぎ、下睦びて、事を論ふに諧ふときは、 一に日か く、和を以て貴しと為し、忤ふこと無きを宗と為せ。 人皆党有り、 亦達れる者少し。 則ち事理自らに通ふ、 是を以て、 或は君父 何事か成
- 9 貴ばざる。 二に曰く、 人尤だ悪しきもの鮮し、 篤く三宝を敬へ、三宝は仏法僧なり、 いままないます。 能く教ふるをもて従ひぬ。 則ち四生の終の帰、 其れ三宝に帰りまつらずば、 万国の極宗なり。 何を以てか枉れるを直さ 何の世何の人か是の 法を

らざらむ

- 10 ť 万気通ふことを得。 上行ふときは下靡く。 三に曰く、 詔を承はりては必ず謹め、君をば則ち天とす。臣をば則ち地とす。 地、天を覆はむと欲るときは、 故に詔を承はりては必ず慎め、 則ち壊るることを致さむのみ。 謹まずんば自からに敗れなむ。 是を以て君言ふときは臣承はり、 天覆ひ地載せて、 四時順り行き、
- ず、 (11) 争や人間の無残な慾念が、 後には、 うしたならば何事も出来ないことはあるまい。 上のものが仲よくし、 この三カ条は、 みな仲よくせよ。 前述のごとく蘇我氏の専横や同族間の絶えざる争いがあり、おそらく太子の切なる祈念であったのであろう。 熟読すればするほどその思慮と憂いの深さに驚嘆するのである。第一条の「以和為貴」の一句の背 人は党派を組み易いもので、 下のものが睦みあって、 地獄絵のごとく映じていたのでもあろうか。「以和為貴」 互に和して事を論ずるなら、 実に当然の教であるが、 ほんとうに達者といえるものは少いのだ。 かく述べられた太子の心底には 切はおのずから成就するだろう。 の一語にこもる万感の思いを推察 里や隣人と仲たがいせ 醜怪な政 そ

しなけ ればならぬ。 書紀に接した人はこの言葉が血涙をもってかかれたことを悟るであろう。

- 求道心におかれたのであった。 だったに相違ない、 「必ず三宝を信ぜよ」とは云われなかったのである。 に導入せんとするのである。「人尤だ悪しきもの鮮し」と観ぜられたところに、太子の博大な悲心が偲ばれるであろう。 (12) おける藤原氏の専断、 そしてこの第二条で最も大切な一句は、冒頭の「篤敬三宝」である。太子は「篤く三宝を敬へ」と仰せられたけれど、 らばどうであろうか。 大乗の 悲心は一切を摂取して捨てない。 然るに太子は 更に下っては道鏡のごとき僧すら出たのであるが、 信仰はその自発性を失い、 深い思慮というべきである。 「必信」でなく いかなる凡俗の裡にも一抹の生命の光りを求めて、 或は政治的党派性を帯びるであろう。 「篤敬」という文字を用いて、 もし律法において、一信仰を強制し、 仏教伝来以後、さきには蘇我氏のことあり、 わが仏法の黎明を告げた太子の御本心はかく 信仰をあくまで国民の 蘇我と物部との争い 仏法を必ず信ぜよとしたな これを機縁として高き また奈良朝に (f)は よき教訓 的
- た。 る。 13 る抑圧が、 のごときものであった。 虐を抑えることは容易ならざることだったに相違ない。 は 蘇我馬子は皇室に対しても、 かなる意味をもっていたであろうか。一言で云うならば、 詔勅を **(5**) 再び 「篤く敬へ」とは申されなかった。 次の第三条 同族間 0 流 血 即ち、 の惨事をもたらすであろうことは、 また太子御自身にとっても、 詔勅に対するときは 至高の権威を、 太子は日々この危機の上に政事を執られたのである。 「承韶必謹」 最も血肉的に親しい外戚であり、 勢力ある氏族の専横を深く危惧された上での決断であ 詔勅におかんとしたのが太子だったのである。 太子の最も憂えられたところと拝察さるる。 ۲ はじめて「必ず」 という言葉を用い それだけに彼一 ておらる 武力によ 統 の暴

(14)

**(** )

かに昏迷と騒乱があったにせよ、

そこには、一つの出来事、

一つの問題に向っての、

しずかな凝視と味いと沈思

して三宝を敬い、そして最後にこれら一切を傾けて護国のために捧げられんとしたのであった。 の凡夫の在りのままの姿に発し、 と |  $\mathcal{O}$ しい古仏や寺院にのみあらわれているのではない。それを支える根源には想像を絶した苦闘があったのだ。むしろ現世 地 獄より、 かかる悠久の時間というものはあったに相違ない。 ひそかに祈念し憧憬したところに、諸々の菩薩像が立ちあらわれたのだといってよかろう。 しかも必ず仏性をみとめてこれを捨てず、すべての人を抱擁し、 即ち、 太子の大乗の愛は、 人間に関する深き観察、 飛鳥の精神は、 この 和の 大なる悲痛 根本の教と 煩悩具足 ただ美

亀井 勝一郎「大和古寺風物詩」

問 次の一文を元の場所に戻して、その直後の五字(句読点・記号等を含む)を抜き出しなさい。

第

K

それゆえの慈心は、

太子の御心から光りのごとく発したのであった。

さればこそ第二条において信仰の問題を示されたのである。

第二問 問題文中に、 論理的におかしい二十字以内の文があります。 その文を抜き出し、正しい文を書きなさい。

第三問 段落①~⑭の中に余分な一文があります。 その一文のはじめの五字 (句読点・記号等を含む) を抜き出しなさ

ر *ا* ه

ア **イ** むしろ ウたとい エところで **オ** しかし

第五問 ( a))~( ff )に入る言葉を、次のア~力の中から選び、記号で答えなさい。

灰がには

ア

信仰

1

祈り

ウ

利益

I

自発

オ

思慕

カ

《問題V》 **論理的な文章とは、不特定多数の読者に向けて、自分の主張をなるべく誤解のないように筋道を立て、し** 

いので、自分の主張に対しては論証責任が生じます。以上を念頭に置いて、次の問いに答えなさい。 かも、正確に伝えようとしたものです。自分が思っていることを、すべての読者が同じように思っているとは限らな

字でした。さらに、 齢が18歳以上に引き下げられて以降、 20-9年7月の参議院議員通常選挙の全体の投票率は48・8%で、 10 代 (18歳・19歳) 国政選挙における10代の投票率は、46・78%、 の投票率は31・33%で、 全体より17ポイント以上低く、 国政選挙としては24年ぶりに50%を切る低い数 40 • 49 % 20-6年に選挙権年 31・33%と、低下し続

ています。 もともと投票率は若年層ほど低い傾向にあり、 しかし、 10代を含め、 若者の投票率は依然として低いままです。 選挙権年齢の引き下げを受けて、 学校現場等では主権者教育が始まっ けています。

若者の投票率が低いのはなぜだと思いますか。三百字以内 (句読点・記号等を含む)で論じなさい。ただし、 後の①

**~④の言葉をすべて使用すること。** 

### 【使用する言葉】

1 主権者教育 2 政治的中立 3 政治不信 4 報道の在り方

- 18 -

※主権者教育…単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるにとどまらず、主権者として社会の中で自立し、他者と連 携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担う力を身につけさせるための

教育。

様々な立場を理解、整理し、自分で考えることの第一歩とします。) (本検定はあくまで論理力を試すものであって、特定の主張を支持するものではありません。様々な重要な問題に対して、